



「尾道」をよむ

やまなみ街道の開通で、松江から尾道への旅がずいぶん近く、便利になりますね。これを機会に尾道に、さらに足を進めて四国へと、旅行の計画を立てている方も多いのでは。当館もガイドブックを多数取り揃えております。ぜひ、ご利用ください。

さて、尾道旅行に出かける前に、まずは尾道に関連する本からアプローチしてみるといいでしょう。より一層身近に感じられるかもしれません。

尾道との経済的な交流は古くから行われていましたが、両者の交流の大きなきっかけとなったのは、第12代横綱陣幕久五郎のご縁でしょう。久五郎は東出雲町下意東の出身で、19歳の時に尾道の力士に弟子入りし、その後江戸に出て、横綱となった人物です。島根県出身の横綱は、今なお彼1人。東出雲町には、久五郎自らが建立した石碑が、また尾道の光明寺には墓と手形の石碑があります。偉大な郷土出身の力士の足



跡を「雷走る」「勤王横綱陣幕久五郎」「東出雲町力士伝」などで、辿ってみてはいかがでしょうか。

また、尾道は「文学の街」。林芙美子や志賀直哉など、文人墨客が愛した街として知られています。「文学のこみち」には、尾道ゆかりの作家・詩人の作品が刻まれた自然石が置かれ、美しい風景を眺めながら、文学の世界に浸ることができます。小泉八雲を始め多くの文豪が立ち寄り、作品を生み出していった松江との共通点を感じますね。この機会に彼らの作品を読んでみるのもよし、また桐野夏生「ナニカアル」などで、その人生を辿ってみるのもいいですね。

尾道出身の小説家と言えば、若い世代に人気の湊かなえ（旧因島町出身）や東川篤哉なども。

当館では、このほか写真集や尾道発のガイドブックなども揃えております。まずは図書館で、尾道の旅をお楽しみください。

中央図書館長 吉田 紀子

図書館からのお知らせ

こそだてえんむすびぶっく

年齢・テーマ別
絵本セット
貸出はじめます！

おすすめの絵本5冊をセットにして
絵本えらびをサポート

松江市立図書館では、年齢別、テーマ別の絵本をセットにして貸出するサービス『こそだてえんむすびぶっく』をはじめます。

赤ちゃんの頃から本に親しむことは、とても大切です。ぜひ、この絵本セットをご活用ください。

映像資料の利用方法が変わります

平成27年4月1日より、映像資料（DVD・ビデオ）の貸出サービスを始めます。それに伴い、ビデオコーナー（中央図書館2階）は休止いたします。

※貸出しは 図書館カウンターで行います。
※1人2本まで2週間貸出します。（予約・延長はできません）

しまね信用金庫様から90周年記念事業で図書カードをいただきました。有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

CHIDORI
No.96

松江市立図書館だより
編集・発行／松江市立中央図書館
〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44
☎ (0852) 27-3220
2015年3月発行
<https://www.lib-citymatsue.jp/>
E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp



しまねけんちゅうかんず
島根縣鳥瞰図（部分） 昭和5年 島根観行協會発行より

飛ぶ鳥の目に写るように、高い所から地上を見おろしたような図で、建物や山などが立体的になっています。南を上を描かれています。

内容

- 表紙 島根縣鳥瞰図（部分）
- 見開き 松江と広島を結ぶ道（中国やまなみ街道全線開通）
- 裏表紙 郷土の葉「尾道をよむ」
図書館からのお知らせ

尾道松江線 (中国横断自動車道)

- 延長 約137Km
(島根県側 約51Km)
(広島県側 約86Km)

広島県尾道市を起点とし、広島県三次市を経由して松江市を終点とする高速自動車国道です。尾道-三次間を尾道自動車道と呼び、三次-宍道間を松江自動車道(宍道-松江間は山陰道)と呼びます。

松江と広島を結ぶ道

中国横断自動車道尾道松江線(愛称 中国やまなみ街道)全線開通

「道」は昔から人々によって整備され、物資の輸送、人々の文化交流や信仰、そして産業の発展に大きな役割を果たしてきました。

山陰と山陽を結ぶ重要な道の一つであったのが、「宍道尾道街道」です。この道は銀山街道とも交わり、出雲巡礼の道も一部この街道を通っていました。

平成27年3月22日、高速自動車道尾道松江線が全線開通します。山陰と山陽、そして四国への往来がより早くなります。沿線地域も身近になり、生活・文化・経済効果に大きな期待が寄せられています。



宍道尾道街道

- 島根県側 (総距離 約71.6Km)
宍道町-加茂町-木次町-三刀屋町
-掛合町-頓原町-赤来町-赤名峠まで

戦国時代、安芸の毛利氏が尼子氏を攻めるルートとして使ったといわれています。

江戸時代には、仁多、飯石の特産物(鉄・米・木綿・紙など)を運ぶ輸送路としても利用されました。

明治時代になると、軍用道路として整備が行われ、荷馬車が通れるようになりました。

大正7年には、初めてバス(木次~三次間)も運行されました。そして、昭和38年に建設省直轄の改修工事が始まり、同40年に国道54号に指定されました。

宍道

宍道尾道街道の起点にあたり、山陰道との分岐点でもあります。街道からの荷物など宍道湖航路を使って松江に送る港町の役割を果たしていました。明治24年11月には、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、松江から熊本転任するときに、宍道から人力車でこの街道を通り広島へ向かいました。



宍道の道標



佐々布の六地藏堂

掛合

松江藩の南西端にあたり、二つの番所(上番所と下番所)が置かれ、役人が常駐していました。掛合から頓原に向かう間で、松江藩と広瀬藩の境を越えます。境界には、塞の神が祀られ二本の杉があり、一本は松江藩領に、もう一本は広瀬藩領に植えられたと伝えられています。



藩境の塞の神と二本の杉

頓原

この辺りは広瀬藩領で広瀬藩の郡本が置かれていました。また、備後国へ向かう重要な道「ワニの道」と交差しています。



佐見の一里塚

ワニの道

出雲・石見の日本海から、魚介類やワニ(サメのこ)も運ばれたことから「ワニの道」と呼ばれました。

赤来

西から来る銀山街道と合流します。そして国境の赤名峠を越え、三次へと進みます。



銀山街道との合流点
道標には、「左八とん原まつ江大やしる一はた道」「左八石州さげ谷大田大もり五百らかん」と記されています。

銀山街道

石見銀山から産出された銀の輸送路として栄えた道です。銀の流通は始め海上輸送でしたが、江戸時代になると陸路が利用されるようになりました。大森から日本海側の港と瀬戸内海側の港に銀を積み出すために整備され、赤名で宍道尾道街道と合流し、赤名峠を越えて尾道まで運ばれました。

江戸時代の街道

島根県「歴史の道」シリーズ⑧
島根県教育委員会発行より

【参考にした資料】

- 島根県「歴史の道」シリーズ/島根県教育委員会
- 島根県歴史の道調査報告書第八集/島根県教育委員会
- 定本 島根県の歴史街道/池橋達雄監修 樹林舎
- 「道」の文化史/中国地方総合研究センター

三刀屋

一部、出雲巡礼の道と重なっており、9番札所峯寺・12番札所寿福寺があります。また、長崎の原爆で被爆した永井隆博士のおいたちの家があります。



永井隆博士おいたちの家

永井隆(博士)

松江市学町で生まれました。間もなく父の医院開業のため飯石村(現雲南市三刀屋町)に移り住み、この地がふるさどになりました。

加茂

江戸時代には、松江藩より木綿市の許可が与えられ仁多郡・飯石郡からも木綿が集まり、市場町として栄えました。



加茂岩倉橋
加茂岩倉遺跡へはここから約2キロ



宇治の八大龍玉碑と一畑薬師銘石塔

木次

南北に流れる斐伊川があり、橋がなかったため人々は、徒歩や船を使って渡りました。木次の近くの村々にとって欠かせない水運ルートでした。



里方の八本杉
スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治し、八つの頭を埋めて、杉を植えたと言われています。